

2009. 3. 20 於日本武道館

柔道ルネッサンス活動の講話について
(第31回全国高等学校柔道選手権大会)

東海大相模高校柔道部
総監督 林田 和孝

ただいま、ご紹介頂きました東海大学付属相模高等学校の林田でございます。

朝から熱戦が繰り広げられているなか、準決勝戦の前、大切な時間に柔道ルネッサンスについてお話をさせて戴きます。

2001年より『柔道はマナーで一本』『礼は美しい柔道の心』『来た時よりも会場を美しく』をテーマに、みんなで柔道の心を考え、『日本柔道の原点に立ち還ろう』と講道館・全日本柔道連盟は柔道ルネッサンス活動を推進しています。

まずはじめに本日、第31回全国高等学校柔道選手権大会出場校の皆さんおめでとうございます。

この大会に出場できた選手と部員の皆さんは、高校柔道界の一流の証であり、日本柔道界の宝でもあります。

さらに、次の頂点を目指すためには更なる努力が求められます。

全日本・世界・オリンピックを目指すためには、まず、妥協しない事が必要ではないかと考えます。

勉強や練習での怠けの気持ち、やりたくない事やきつい練習を先に延ばす気持ち、指導者がいなければ集中できないことなど、皆さんにも少なからず覚えがあると思います。常に目標・目的の再確認を行い、妥協しない事、妥協しない心とは、文武両道に相通じる心でもあります。

次に、自分が強くなったのは、自分一人の力だけでは決してありません。両親をはじめ家族の協力、部員や友人の励ましなど、色々ありますが、今の環境を当たり前と思わず、感謝の気持ちを持つことが大切ではないでしょうか。

そして、自分自身の過去の成績や戦歴に満足しないという事です。現状に満足しては、更なる飛躍は望めません。

柔道を通じて体得した、礼儀・言葉遣い・相手の立場を考える優しさ・マナーやエチケットなど、道場だけではなく、学校生活や社会生活で活かさなければ柔道をする意味がないのではないのでしょうか。

本日の大会で、優勝するのは一校であり、また、個人戦においても優勝者は一人です。たとえ試合に敗れても、皆さんは次の大会を目指し、稽古に励むと思います。挫折しても次の夢の実現に向けていつも再出発しています。この体験が社会生活では必要不可欠であり、人生の先行体験ということが、自分自身をさらに成長させてくれるのではないでしょ

うか。

本校、剣道部女子生徒の話

昨年3月10日卒業しました、剣道部女子部員の話をしてします。

彼女は生まれながらに、左足の指が無いというハンディーを背負いながら三年間剣道を続けしかも、誰よりも早く守衛さんから鍵を受取、最後迄稽古に励み、鍵を閉め守衛さんに返す事を続け、卒業式当日も道場の鍵を開け、式迄の時間稽古をし、守衛さんに鍵を返しに行くと、彼女の日頃の努力を見守り続けた守衛さんから卒業のお祝いに万年筆をプレゼントをされました。

彼女の努力、守衛さんの温かい気持ちに心打たれる思いをしました。

今回の話が今後、皆様の何らかの参考になれば幸いです。

御清聴有難うございました。